

### 34. 池にコケが生えましたが、魚を殺さずにコケをとる方法は？

水の流れが極端に少ない湖沼、内海などの閉鎖水域では、水温・pH値の上昇に伴い、リン塩、窒素化合物の蓄積によって富栄養化現象が生じる。その結果、藍藻類が大量に発生する。これは小さな池や水槽の場合、日光の照射なども影響するため、通常6～10月に多発する。この藻のことを俗に「コケ」とか「アオコ」などと称し、水槽の壁面を汚したり、水が青緑色を呈したりする。

藻の駆除には銅、塩素処理が効果的である。藻類除去の最低有効濃度は両者が1 ppm以上である。しかし銅イオンの魚類の致死限界量は約0.2ppm程度で、残留塩素は0.5ppm程度である（魚の種類、水温、pH値によって異なる）。したがって魚類を池や水槽に入れたままで処理することは困難である。

魚類に影響しない藻の除去法の例を以下に示す。

（池の水を汲み出し新しく注水できる時）

- ① 魚類をひとまず別の水槽に移す。
- ② 池の水を汲み出して汚泥などをよく清掃する。
- ③ 市販の次亜塩素酸ナトリウム液4～6%（ハイター<sup>®</sup>、ピューラックス<sup>®</sup>など）の1,000倍希釈液を池の内側、底面に噴霧し、ブラシで洗浄する。
- ④ 水洗を繰り返した後、満水にする。
- ⑤ 翌日、別の水槽の魚類を移し入れる。

（池の水を取り替えずそのまま処理する時）

- ① 魚類をひとまず別の水槽に移す。
- ② 硫酸銅を水に溶解し（池の容積が750m<sup>3</sup>の場合、硫酸銅約3kg）、池の水に注入して良く攪拌混和する。
- ③ 市販の次亜塩素酸ナトリウム液4～6%（ハイター<sup>®</sup>、ピューラックス<sup>®</sup>など）約500gを希釈しながら加え、良く攪拌混和する。
- ④ 2日間放置。ここで池の水の色、濁りが残存していれば再度前の操作を繰り返す。
- ⑤ さらに2日後、念のため魚類を2匹位池に入れ様子を見る。魚類に異常を生じたら、池の水の半量を排除し、新しく水を注入する。

いずれの方法とも、裸銅線（電線などの屑でよい）約1m位を数本を、注水管の流出部に吊しておく。銅線が水あかで汚れてきたら取り出してサンドペーパーなどで磨くことが望ましい。

また魚類に影響がなく、藻の発生を防ぐ薬剤で水の素<sup>®</sup>（水槽用：（株）ニッソー ☎ 03-3884-2611）などが観賞魚取り扱い店などにて販売されている。

〔文献〕 岩戸武雄：日本医事新報 No 2738：181, 1976, ibid. No 2945：147, 1980.

メーカー資料.